

## 予算特別委員会次第

平成 27 年 3 月 18 日  
全員協議会室 9 : 32 ~

### 1. 開 会 (9 : 32)

### 2. 協議事項

- (1) 議案第 25 号 平成 27 年度三芳町一般会計予算
- (2) 議案第 26 号 平成 27 年度三芳町国民健康保険特別会計予算
- (3) 議案第 27 号 平成 27 年度三芳町介護保険特別会計予算
- (4) 議案第 28 号 平成 27 年度三芳町後期高齢者医療特別会計予算
- (5) 議案第 29 号 平成 27 年度三芳町下水道事業特別会計予算
- (6) 議案第 30 号 平成 27 年度三芳町水道事業会計予算

### 3. その他

### 4. 閉 会 (15 : 08)

平成27年3月18日(水)

委員会に出席を求めた者の職氏名

予算特別委員会

委員長	秋坂豊	副委員長	久保健二
委員	石田豊旗	委員	細田家永
委員	抜井尚男	委員	井田和宏
委員	菊地浩二	委員	増田磨美
委員	吉村美津子	委員	小松伸介
委員	岩城桂子	委員	山口正史
委員	杉本しげ		
議長	内藤美佐子		

説明者

町長	林伊佐雄	総務課長	駒村昇
上下水道課長	前嶋功	上下水道課副課長	池上武夫
上下水道課業務担当主幹	中島喜久男	上下水道課水道施設担当主幹	栗原浩

委員会に出席した事務局職員

事務局長	池上義典	事務局書記	小林忠之
事務局書記	松本久子		

---

◎開会の宣告

○委員長（秋坂 豊君） おはようございます。ただいま出席委員は13名であります。委員会条例第15条の規定による定足数に達しておりますので、直ちに予算特別委員会の会議を開きます。

（午前 9時32分）

---

○委員長（秋坂 豊君） 本日の議題となります第30号についての質疑に入るわけですが、その前に上下水道課長より報告がありますので、上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

先ほど配りました貸借対照表、これの中の18ページなのですが、28年3月31日末現在のこれの八の構築物減価償却累計2866184916とありますが、27年度の予算の執行額が入っておりませんでしたので、こちらを計算をしたいので、休憩をお願いしたいと思うのですが。

○委員長（秋坂 豊君） 大体どれくらい。

○上下水道課長（前嶋 功君） 15分ぐらいお願いできればと思うのですが。

○委員長（秋坂 豊君） 菊地委員。

○委員（菊地浩二君） 菊地です。

その前に、そもそも資料がかわって再提出されたこととか、一切公式な発言がないのですけれども、きのうからきょうの間に何があって、今どうなっているという説明が全然ないので、配付資料の説明もないと思うのですが、そこら辺まず最初の交通整理が必要だと思うのですけれども。

○委員長（秋坂 豊君） 暫時休憩します。

（午前 9時34分）

---

○委員長（秋坂 豊君） 再開します。

（午前 9時34分）

---

○委員長（秋坂 豊君） ただいまの菊地委員の質疑なのですが、資料がそろった段階におきまして差しかえという形をとって、最初から説明という形をとりたいと思いましたが、そういう形にさせていただきました。よろしいですか、それで。

それでは、休憩します。

（午前 9時35分）

---

○委員長（秋坂 豊君） 再開します。

（午後 1時31分）

---

◎発言の取り消し

○委員長（秋坂 豊君） 初めに、発言の取り消しについて申し出がありましたので、発言を許可します。

山口正史君。

○委員（山口正史君） 山口です。

発言の取り消しをお願いいたします。平成27年3月16日の本会議における私の発言で、一部不適切な発言がございました。取り消しのほうをお願いいたします。

○委員長（秋坂 豊君） ただいまの申し出のとおり発言を取り消したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（秋坂 豊君） 異議なしと認めます。

よって、申し出のとおり発言を取り消すことに決定しました。

なお、発言については文書にていただいております。

---

#### ◎資料の差し替え

○委員長（秋坂 豊君） 議案第30号に関して資料の差し替えの再提出がありましたので、お手元に配付してあります。ご確認ください。

また、発言訂正の申し出もありましたので、あわせて説明を求めます。

初めに、資料の差し替えについて、上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。訂正をお願いいたします。

まず、26年度予算書の14ページなのですが、建物の償却金額、これが25年度の1億5,793万8,598円となっていました。それを2億1,783万9,523円に訂正をお願いいたします。また、減価償却累計のほうが1億1,100万7,557円に変更をお願いいたします。

構造物もやはり68億6,599万1,942円に訂正をお願いいたします。それと、累計額28億6,618万4,916円に訂正をお願いいたします。計のほうは39億9,980万7,026円に訂正をお願いいたします。

同じく機械及び装置のほうは14億5,579万4,502円に訂正をお願いいたします。あと、減価償却累計が7億9,971万2,129円に訂正をお願いいたします。これの差し引き6億5,608万2,373円も訂正をお願いいたします。

有形固定資産合計額49億8,096万5,856円に訂正をお願いいたします。固定資産の合計も同じ金額であります。49億8,096万5,856円に訂正をお願いいたします。

続きまして、15ページの資産の合計、こちらが60億2,341万369円に訂正をお願いいたします。

続きまして、16ページ、当年度未処分利益剰余金、これを6億1,987万8,426円に訂正をお願いいたします。その下の利益剰余金合計額も同じ金額で訂正をお願いいたします。

続きまして、利益剰余金の合計額7億4,545万690円に訂正をお願いいたします。剰余金の合計額を25億4,367万618円をお願いいたします。

続きまして、負債資本合計額60億2,341万369円に訂正をお願いいたします。

続きまして、17ページの下の方の特別損失、これの過年度損益修正損なのですが、438万5,000円に訂正をお願いいたします。合計、利益剰余金のほうは6億1,987万8,000円に訂正をお願いいたします。

続きまして、18ページなのですが、建物につきまして2億1,783万9,523円に訂正をお願いいたします。減価償却の累計額、これの差引額が1億763万557円に訂正をお願いいたします。

構築物70億1,445万9,534円に訂正をお願いいたします。減価償却の累計額30億3,854万7,916円に訂正をお願いいたします。差引額39億7,591万1,618円をお願いいたします。

機械及び装置17億3,637万8,502円をお願いいたします。減価償却累計が8億5,639万3,129円をお願いいたします。差し引き8億7,998万5,373円をお願いいたします。

工具及び機械備品につきましては2,007万7,724円をお願いいたします。差し引きの合計額556万7,654円をお願いいたします。

有形固定資産合計額51億7,865万5,522円をお願いいたします。固定資産の合計、同じ数字の51億7,865万5,522円をお願いいたします。

続きまして、19ページ、資産合計額62億8,129万367円をお願いいたします。

続きまして、20ページ、当年度末処分利益剰余金6億372万1,424円に訂正をお願いいたします。利益剰余金の合計も同じ額です。

続きまして、剰余金合計額7億2,929万3,688円、資本合計25億2,751万3,616円、負債資本合計62億8,129万367円に訂正をお願いいたします。

訂正の原因なのですが、減価償却額の計算方法で、前年度決算額に今年度予算額を足した額とするところを、前年度決算額ではなく、前年度見込み決算額の計算で計上してしまいましたので、誤りがありましたので、訂正をお願いいたします。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） ただいま上下水道からの件につきましては、資料の差しかえについての説明であります。

---

#### ◎発言の訂正

○委員長（秋坂 豊君） 続いて、発言訂正の申し出がありましたので、これについては副課長。

○上下水道課副課長（池上武夫君） 発言の訂正をお願いいたします。

昨日の私の発言で、事務所修繕について、建物の固定資産に組み入れなくてよいという発言をしてしまいましたが、建物の修繕は資産に組み入れなければならないので、資産に組み入れるということで訂正をお願いいたします。大変失礼いたしました。

○委員長（秋坂 豊君） よろしいですか。

---

#### ◎議案第30号の審査

○委員長（秋坂 豊君） 昨日に引き続き、議案第30号 平成27年度三芳町水道事業会計予算を議題とし、質疑を行います。

予算書6ページから22ページ、平成27年度予算実施計画から予定キャッシュフロー計算書までの8件について質疑を行います。

質疑をお受けします。

上下水道課長、答弁ですね。

○上下水道課長（前嶋 功君） はい。

○委員長（秋坂 豊君） では、答弁について、上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。昨日、菊地委員さんのほうから質問がありました。それに対する回答を行います。

26年度の予算の決算見込み額と27年度予算にあります26年度の決算見込み額、これの37万円の差は何かというご質問がありました。それにつきましては、25年度の決算の数字が1億462万5,966円となりまして、26年度予算の29ページにあります26年度執行予定額220万6,000円を足してもらいまして、27年度の予算の1億683万1,966円から25年度決算見込み額の1億645万5,091円を引いてもらいますと37万6,875円となります。ですから、25年度の決算見込み額、これが26年度の予算計上の委託をしたときに、固定資産の全部洗い出しをしてもらいました。そのために額が変わってきましたので、そこで37万円の変更が出てきています。

続きまして、27年度予算の中で、26年度の建物の減価償却額と27年の減価償却額の差額337万円は何かというご質問ですが、これにつきましては27年度の予算書の29ページに減価償却費の建物337万7,000円計上してありますので、26年度の金額にこの金額を足して27年度の数額となっております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 菊地委員。

○委員（菊地浩二君） 菊地です。

今の答弁の中で、25年度の決算のときに償却資産の洗い出しをした。その後、額が変更になったというのですが、洗い出しをすると、なぜ額が変更になるのか。そもそも額が変更になるということなのか、償却資産に対する減価償却累計が間違えていたから変更になるのか、それとも見直しをして何らかの形で、何かしらあって変更になったのか、それはどうなのでしょう。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

コンサルに確認したところ、何カ所か誤りがあったということで、このような数字になったと聞いております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 菊地委員。

○委員（菊地浩二君） 菊地です。

とりあえず、今、資料もらったのですけれども、数字を追いかけているだけで、全然数字の意味が頭の中に入っていないのですが、そもそも27年度この予算自体は、今、洗い出しをして確かであるというところだと思うのですが、そのもとになっている26年度の予算書、こちらは訂正はしなくて大丈夫なのでしょう。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

26年度の予算を組むのに当たりまして、25年度の決算見込みの数字を立てて、それで26年度の予算を組むようになりますので、決算で正しい数字に変更になってきています。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 菊地委員。

○委員（菊地浩二君） 菊地です。

25年の決算が出れば、それは正しい数字なのでしょうけれども、ただそれで27年度間違えているわけですよ、これが。ということは、その前になっている26年度の予算書の減価償却の額も間違えているのではないかと思いますので、そちらは正しいということですか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。

確かに26年度の減価償却、これはあくまでも見込みでいっていますので、間違った数字で記載されているかと思えます。先ほども言うように、25年度の決算で固定資産の額が確定しておりますので、27年度につきましては変更はないと思えます。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 菊地委員。

○委員（菊地浩二君） 菊地です。

26年度の予算があって27年度の予算がある。当然連動はしていると思うのです。27年度は間違えていましたというのは、それはわかります。その内容についてはこれからなのですけれども、その前の26年度のほうの予算の積算資料のほうで、課長お持ちでしょうか。9ページで減価償却費、これ4項目あるのですけれども、この4項目を足した額と本年度の予定額が差異があります。これは説明事前にしてあるのですが、こういったことの訂正もないまま、27年度これで正しいですよと言われても、ちょっとそれが理解ができないのですけれども、こちらが間違えていながら、なぜ27年度だけの訂正になるのかお願いします。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

9ページなのですが、これにつきまして構築物と機械及び装置、これの数字の転記ミスがございまして、構築物、これの金額が1億6,794万3,366円になります。あと機械装置のほうが5,999万1,451円となります。1,000円以下につきましては切り上げになりますので、これを足していただければ2億3,123万2,000円となります。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 菊地委員。

○委員（菊地浩二君） 菊地です。

多分、ほかの委員さんは今資料がないというか、わからないかと思うのですけれども、要するに今こちらが言って訂正なかったわけですね。それだとすると、ここにある積算資料のこっちも、では本当にこれで合っているのかどうかという担保がとれないのです。今、こっちの27年度の予算資料、積算資料、こちら4項目あるのですけれども、これが確かであるという根拠をいただきたいのですけれども。

○委員長（秋坂 豊君） 菊地委員。

○委員（菊地浩二君） 菊地です。

それと、もう一つ、転記ミスということですが、そもそも何で転記ミスというのがあるのかわからないのです。そういうシステムであれば、全部システムのほうでやってくれるはずなのです。それがシステムだと思うのです。なぜ転記ミス、人為的ミスが、この会計帳簿をつくる中で起こってしまうのか。システムエラーなのか、ヒューマンエラーなのか、どうなのでしょう。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。

一番最初の資料につきましては、後日提出させてもらうわけにはいかないでしょうか。今、手元に資料がないので、例えば建築物が幾らだと、構築物が幾らだという今年度の細かい数字がシステムの中に入っていますので。

あと、こちらのシステムでこの計算をしているのではないかということなのですが、これはまことに申しわけないのですが、エクセル等で作って手書き入力になっていますので、システムの入力にはなっていません。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 菊地委員。

○委員（菊地浩二君） 菊地です。

きのうからきょうにかけての物事の問題の根本というのは、そこにあるのではないのかなと思うのです。表計算ソフトを自分でパソコン入力をして、出たものをまた違うところに入力のし直しをしてということをやっている中で、実際理解が間違えていたりとか、入力に人為的ミスがあったりとかいうことで、この予算が本当に不確かなものになってしまった。実際突っ込んで聞かないと、こちらでもわからないわけで、それだと今言われても、システムの中に入っているから、後で資料出しますと言われたところで、それが本当に正しいのだろうか、その疑念が全然払拭できないのですけれども、そもそも何でそういうシステムを入れたのか。この町の一般会計等でやっているようなシステム、そこまでならないのかもしれないですけれども、そういった手入力の、細かいところの最初の入力は必要ですけれども、あとはシステムのほうでやってくるとか、そういうシステムでないことが問題だと思うのです。なぜそういうシステムになっているのか。これはそういったことがあるから、こんな問題が起こっているような気がするのですけれども、いかがなのですか。

○委員長（秋坂 豊君） 水道業務担当主幹。

○上下水道課水道業務担当主幹（中島喜久男君） 中島です。

システムの関係の質問なのですけれども、この予算要求資料の作成について可能かどうか、受託会社のほうに確認したいと思います。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。

その辺につきましては、計算センターというか、この会社のほうと一度協議をして、システムにできないかできるのか、なぜできないのか、その辺を詰めて話し合いたいと思います。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 山口委員。

○委員（山口正史君） 山口です。

では、今のシステムは、固定資産関係に関してはどういう入力されているのですか。というのは、取得時点で、取得原価、償却期間がどのぐらいで、定額なのか定率なのかということで入れているのか、そこまで入れれば、当然のことながら当該年度の償却額は出てきますよね、システムで。そうはなっていないのです



か。それは取得額入れて、それで減価償却額は手入力でまた入れているという、そういう状態なのですか。どういう仕組みになっているのでしょうか。

○委員長（秋坂 豊君） 水道業務担当主幹。

○上下水道課水道業務担当主幹（中島喜久男君） 中島です。

固定資産の管理システムは導入しています。ただ、企業会計との互換性がありませんので、固定資産の管理システムの入力業務は職員が行っています。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 山口委員。

○委員（山口正史君） 山口です。

企業会計と関連がないという話ですが、固定資産は企業会計も関係ないはずですよ、定額で償却年度でおっことしていただくだけです。それが何か水道会計って違うのですか。

○委員長（秋坂 豊君） 水道業務担当主幹。

○上下水道課水道業務担当主幹（中島喜久男君） 大変失礼をいたしました。会計ソフトと固定資産の管理システムが異なるということです。

○委員長（秋坂 豊君） 山口委員。

○委員（山口正史君） そうしますと、固定資産の管理ソフトにおいて、償却額あるいは償却の累計等々入力して出して、そのデータをもとに、今度はそれをこっちの会計システムのほうに手入力すると、そういう仕掛けですか。

○委員長（秋坂 豊君） 水道業務担当主幹。

○上下水道課水道業務担当主幹（中島喜久男君） 委員さんのおっしゃるとおりです。

○委員長（秋坂 豊君） 山口委員。

○委員（山口正史君） そうしますと、もともとの固定資産の管理システムに入力するのを間違えると、全滅するわけですよ、全て。ちょっとそれだと検証とれないのですよ。さっき菊地委員が言ったように、一体何が正しくて、何がおかしいかとなったときに、固定資産の管理システムから出しますと。リスト全部もらったところで、当初の入力で間違えていましたになったら、全滅してしまうのです。では、何が正しいのですか、根拠はといったときに、失われていくのです。

ちなみに、私も企業にいましたから、やり方としては、固定資産でも何でも会計システム入れていました。それとは別に固定資産台帳をつくって、これは年度、定率だか定額だかで入れて、エクセルでも構わないのですけれども、個々入れていかないと、いわゆるどこの業者からいつ取得したというのも、細かいところは会計システムで入れ込めないところがありますから、当然別な形で入れてある。会計システムは会計システムで、当該年度の償却資産額出させた。それとそれを突合して、問題がないかというのを確認しているのです。それがないと、はっきり言って、町の場合にはいいのですけれども、企業の場合は税務署から監査入りますから、そんなことやられるとバツになるのですよ。水道のほうはあるかもしれないのですけれどもね。必ずそういうダブルチェックというのですか、突合して、数字がおかしかったら、どっちか入力間違っている。両方とも1円単位まで同じ間違いを起こすというのは、まずないですから。そこの部分の仕組みそのものが、欠陥という言葉がいいのか悪いのか別ですけれども、やはり見ていて検証できないような状態になっ

ているので、こんな状態になっているのかなと思うのですが、どうでしょう。

○委員長（秋坂 豊君） 水道業務担当主幹。

○上下水道課水道業務担当主幹（中島喜久男君） お答えいたします。

固定資産の管理台帳の紙ベースの出力は行っています。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 山口委員。

○委員（山口正史君） ですから、固定資産の管理システムから紙ベースで出力しました。それをもとに入力しました、会計のほうに。ですから、私が言っているのは、こっちのデータをもとにこっちを入れていまして、こっちの大もとのデータが狂っていれば、こっちも狂うに決まっているのです。我々がやっていたのは、こっちも入力するし、こっちも入力するのですよ、両方。手間といえば手間ですけども、固定資産の管理ってそんなにしょっちゅう発生するものではないので、そんなに手間にならないのです。こっちのデータとこっちのデータをつき合わせるわけです。どっちか、こっちで入力の間違っている、あるいはこっちで入力間違っている、たまにあります。そこで突合して、数値が違っていたら、全部それを追っかけるのです。両方とも追っかけます。だからこそ、過ちがわかるわけですよ。そこを聞いているのですけれども。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。

その辺も含めてシステムの会社と協議をしてみたいと思います。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 菊地委員。

○委員（菊地浩二君） 菊地です。

今回、建物のほうの減価償却の累計は変わらなかったということ、変わっているのだけ。変わっていないのですよね。簿価が5,990万925円上がっているということなのですけども、そもそも5,990万上がっているということが、27年度の予算からなのかどうかも疑問なのと、なぜ5,900万なのだけかなというのが、ちょっと説明いただければと思うのですが。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。

先ほども訂正の中で、建物の数字157938598は217839523と訂正ということでお願いしたかと思うのですが。

それと、あと今言われた5,900万の数字なのですが、25年度で事務所の改築工事、これが5,500万円ありました。それと、あと26年度で旧管理棟が400万ぐらいの改修工事を行っていますので、それで約5,900万という数字になってきます。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 菊地委員。

○委員（菊地浩二君） 菊地です。

まず、建物の簿価ですけども、5,500万と旧管理棟400万ですか、25年度ですよ。ということは、26年度から本来変わっているはずですよ。となると、昨年の予算からも変わっているはずですけども、昨年の予算は変わっていないというのが1つ。

それと、簿価の計算の仕方が、そのかかった金額丸々だったのでしたっけ。そこまで出なかったような気がするのですけれども、その計算は合っているのかどうか伺いたいのですが。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。

予算につきましては、設計金額で見えて組んでおります。それで、決算につきましては、請負額に0.9を掛けて減価償却。済みません。ちょっといい。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課副課長。

○上下水道課副課長（池上武夫君） お答えします。池上です。

簿価のほうは、今、課長が言ったように請負価格で載つけます。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 菊地委員。

○委員（菊地浩二君） 菊地ですけれども、ということは、去年の予算のときから簿価が変わっていておかしくないのではないかと思うのですけれども、それはなぜ変わらなかったのですか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。

26年度には、予算の中で旧管理棟の400万は、減価償却にも載せてあります。25年度でやりました、今、我々がいる事務所のほう、これにつきましては25年度の先ほど考えを述べたように、建物の償却はしないでいいということで決算を受けてしまっていますので、それは26年度で載せていなかったです。27年度からは、両方とも載せるようにしてあります。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 菊地委員。

○委員（菊地浩二君） 菊地です。

ということは、やっぱり26年度の予算間違えているのですよね。本来はちゃんと載せるべきところを載せていないということですよ。それをさっき聞いたのですけれども、それでいいという話ですよ。それは違うのではないかなと思うのですけれども。本来は、だから26年から簿価も変わっていて、25年度にやったやつですから、26年度から減価償却がかかってくる。それで、こっちのほうのバランスシートのほうもそれが反映されているはずなのですけれども、一番最初取っかかり、それがなかったから、どうなのでしょうから始まっているのですけれども、説明が、申しわけない、ちょっとこちらにもわかるような説明をしていただかないと、はい、いいですよというのはなかなか言いがたいのですが、どうでしょうか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

確かに委員さんがおっしゃるとおり、26年度から今の事務所の修繕した建物の経費と、旧事務所のほうの経費、これは載せなければいけなかった数字かと思っております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 山口委員。

○委員（山口正史君） ちょっといいですか。関連で、今、ちょっと聞き捨てならないというか、すごい気

になったのですが、25年度の5,500万でしたか、管理棟の。それに関しては、当初は経費ということで資産計上しなくていいという判断で、決算を受けましたとおっしゃいましたよね。それを26年度から復活させる。その処理というのは、どのようにされているのでしょうか。一回経費で落としたものを復活させる、それも年度またがってというところがすごくひっかかったのですけれども。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

企業会計の場合には、取得してすぐ減価償却ではなく、3月末に取得をしたということになって、翌年度からの減価償却になりますので、まだ減価償却の中には、26年度は入ってきていますけれども、25年度では入ってきていませんので、26年度決算には間に合うかなと考えております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 山口委員。

○委員（山口正史君） 固定資産は翌年というのはわかります。ただ、それを経費処理しているわけですね。経費で落としているわけですね。つまり、減価償却、資産にしない限りは、経費で落とすしか手はないわけです。一旦経費で落としたものを、また復活させる。復活させれば、当然減価処理は翌年で問題ないのですけれども、経費でおっことしたものをどう処理しているのですかということです。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 済みません。暫時休憩をお願いいたします。

○委員長（秋坂 豊君） 暫時休憩します。

（午後 2時07分）

---

○委員長（秋坂 豊君） 再開します。

（午後 2時13分）

---

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

今のご質問ですが、この予算をご承認いただければ、予算の中に26年度の決算、これの決算作成業務委託というのがありますので、その中で全部調べ直させるようにしたいと考えております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） よろしいですか。

ほかにございませんか。

石田委員。

○委員（石田豊旗君） 石田です。

大分あれしたから焦点ずれてしまったので、ちょっと申しわけないのですが、この予算書の中の6ページの水道加入金というところの1,215万の部分が、予算資料の同じく1ページのところに加入金としてあるわけですが、ここの新規加入というところがあるわけです。例えば13ミリが20戸とか、それから20ミリの管が80戸とかあるわけですがけれども、これと、それからもとの会計予算の一番頭にあります給水戸数が1万

5,870戸となっているわけですが、昨年から見ますと200戸ふえているわけです。200戸ふえているうちに対して、新規加入は104戸しかないのですけれども、この差というのはどういうところに出てくるのですか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。

この給水戸数の計算の方法なのですが、今、閉栓をしているところは、戸数には数えていません。給水の申し込みいわゆるうちのほうと契約をするのに、水道使用開始届というのがあるのですが、それを提出していただいたときに戸数にカウントしますので、ですから常時動くという数字になってきます。加入金の104戸なのですが、これは先日もお話ししたかと思うのですが、開発があるかないか等を調査し、区画整理でどのくらいふえるかとかそういうものを調査し、そしてこの戸数を載せております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 石田委員。

○委員（石田豊旗君） 石田です。

そうすると、予算書の水道会計予算の一番頭にある業務予定量というところの給水戸数の1万5,870というのは、どういう数字なのですか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。前嶋です。

先ほども申しましたが、開始請求書を受理している戸数の合計額の目標値になります。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 石田委員。

○委員（石田豊旗君） 石田です。

そうすると、昨年は1万5,670という、26年度の場合そういう数だったのですけれども、それに対して200戸ふえているわけで、200戸申し込みあったけれども、そのうち104戸だけ契約したと、こういうことですか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。

加入金を支払ってもらった戸数と、この給水戸数は違う数字になってきます。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 石田委員。

○委員（石田豊旗君） 石田です。

そうすると、給水戸数とお金を払っている戸数は違うということですか。要するに、お金を払ってくれている戸数と、それから給水している戸数が違うということですか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

開始届をもらった段階で水道料金は賦課させていただいていますので、一緒の数字になるかと思えます。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 石田委員。

○委員（石田豊旗君） 石田です。

ちょっとよくわからないのだけれども、それは今の1万5,870という数字と、この新規加入数が違うという部分はよくわからないけれども、それに対して今回、年間送水給水量が95立方メートル減少しているわけですが、戸数がふえて使用量が減ってという、これは実際各人、皆さん各家庭が使う量が減ったのかどうか知りませんが、これの算出というのはどういう状態で行われているのですか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

これは工場とかも入っていますので、工場ではかなり生産がばらつきがあります。ですから、それでもって年度の使用水量、それが24年度はよかったけれども、25年度は悪かったと。26年度につきましても、今のところ若干の伸びがある程度の推移でいっています。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 吉村委員。

○委員（吉村美津子君） 吉村です。

まず、7ページをお尋ねします。企業債4億1,700万ということで、これの利息はどのくらいになるのか、見込んでいるのかお尋ねいたします。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。

予算書にありますように限度額を3.5、それで見えています、実際今のところ、たしか30年で0.6で、15年で0.5になるかと思っておりますので、何に使うか、建物に使うのか、ポンプに使うのか、それによって違ってくるかと思っております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 吉村委員。

○委員（吉村美津子君） おおよそで結構ですので、その両方についてどのくらいの利息になるのか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。

今の政府資金ですと0.6%くらいになります。

○委員長（秋坂 豊君） 吉村委員。

○委員（吉村美津子君） できれば、利率ではなくて金額で答えていただければと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

1億1,000万の借り入れに対しての利率ということでよろしいのですか。それとも、今まで借りていたものの利息分ということで。

○委員長（秋坂 豊君） 吉村委員。

○委員（吉村美津子君） 今度は企業債の償還金が1億598万1,000円ありますので、ここに対しての元金と利息を述べてもらって、そして私が先ほど言ったのは、4億1,700万企業債として借り入れるので、これの利息はどのくらいになるのか、予想で結構ですから、その辺についても答えていただければと思います。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。

年間で約250万ぐらいになるかと思います。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 吉村委員。

○委員（吉村美津子君） それは1億598万1,000円のほうだと思うのですけれども、それでよろしいですか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

27年度予算の中の企業債4億1,700万の数字になります。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 吉村委員。

○委員（吉村美津子君） これが、今、先ほどお答えしていただいたように1年間ということで、先ほど期限は15年か30年ということなので、実際に今現金預金も、また後でも質問しますが、10億あるわけです。その中で償還のほうは1億で、企業債はこれはかなり大きい金額になっていますけれども、ここまでなぜ借りなければいけないのか、その理由についてお尋ねいたします。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。

剰余金のほうが10億あるからといって、4億1,700万、これを借りて、また返済しなくてははいけませんので、それに充てますと5億とかそういう金額になってきてしまいますので、借りて留保資金としていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 吉村委員。

○委員（吉村美津子君） 吉村です。

かなりの利息がかかってきますので、その辺でちょっとこの金額というのは、かなり大きいというふうに捉えているのですけれども。

それから、8ページのほうで職員の比較が2人削減になっておりますけれども、この要因についてはどのようなことなのでしょう。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

検針と集金業務のほうを委託しましたので、2名減になっております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 吉村委員。

○委員（吉村美津子君） 実際にはいろんなところで職員を削減すべきではないかということで、この水道というのも公共のものですよね。ですから、公共ですから、町民の命にかかわる問題ですので、自治体でしっかり私はやっていくべきだと思うのです。ですから、このように職員を減らすということは、住民のそういった安全性から、私は遠のいてしまうのかなと思うのですけれども、今後については職員を減らしてしま

う方向なのか、それとも今後はそうではないということなのか、どちらを考えているかお尋ねいたします。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

今、委託してあるのは、料金と検針ということでやっていますので、今後につきましては技術職であります現場の人間とか、こういう経理の人間、こういうものは必要になっていますので、このような体制でいきたいと考えております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 吉村委員。

○委員（吉村美津子君） ぜひその辺は、それ以上減らさないでほしいと思います。

続きまして、18ページなのですが、流動資産として現金及び預金が10億1,059万9,415円ということで、平成27年3月31日のところの予定貸借対照表は9億4,809万1,490ということで、この辺のまず増の要因についてお尋ねいたします。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。

先日の議会でも答弁したのですが、料金改定に伴う税抜き金額なのですが、1月末現在で約5,800万の増になっております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 吉村委員。

○委員（吉村美津子君） 私は、現金預金7億とかそのようにあるわけですよ。そういった金額があるのに、値上げをするべきではないと述べてきましたけれども、実際には5,800万も住民負担となって、実際に預金については、預金先はどこになるのか、その点についてお尋ねいたします。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。

普通銀行に7億、あとJAのほうに3億となっております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 吉村委員。

○委員（吉村美津子君） 吉村です。

そうすると、今おっしゃっていただいたように、普通預金としては7億、定期としては残りの3億というふうに捉えてよろしいのでしょうか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。

そのとおりです。

○委員長（秋坂 豊君） ほかにございませんか。

菊地委員。

○委員（菊地浩二君） 菊地です。

ちょっと確認なのですが、新しくもらった17ページのほうで、一番下、特別損失438万5,000円とな



っていると思うのですけれども、これを27年度の積算の資料のほうを見ると、536万3,000円ではないのですかね。438万5,000円というのがどこから来ているのか伺いたいのですけれども。

○委員長（秋坂 豊君） 暫時休憩。

（午後 2時32分）

---

○委員長（秋坂 豊君） 再開します。

（午後 2時34分）

---

○委員長（秋坂 豊君） 質疑の途中ですが、休憩します。

（午後 2時34分）

---

○委員長（秋坂 豊君） 再開します。

（午後 2時44分）

---

○委員長（秋坂 豊君） 休憩前に引き続き質疑を行います。

菊地委員。

○委員（菊地浩二君） 菊地です。

先ほどの質問ですけれども、今回の当初にやったことと、問題の根本は一緒なのかなというところで理解しているのですけれども、いかがでしょうか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

そのとおりであり、手計算の部分とシステムの部分、これが連動していないために、このようになったのかと考えております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 菊地委員。

○委員（菊地浩二君） 菊地です。

であれば、早急にこの問題解決を図っていただきたいというふうに思います。

それと、もう1個確認なのですけれども、きのうは下水道特別会計のほうで家賃はいただいていないという話があったと思うのですが、その件でいろいろ町の中でも減免規定等もあるのですが、それとは別に光熱水費とか電話代というの、恐らく計上はないような気がするのですが、こちらの取り扱いはどうなっているのでしょうか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。

こちらに企業会計がいたときに、光熱水費等々はたしか払ってなくて、面積割で一般会計のほうに算入していたかと思います。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 菊地委員。

○委員（菊地浩二君） 菊地です。

そうなると、不動産賃貸借の中でもそういったもの全部込みで家賃幾らという計算というのもあるので、それはそれでいいのですけれども、家賃そのものを減免しているのであれば、かかった費用分、そちらのほうはしっかり電気代とか電話代等は、本来請求すべきだと思うのですけれども、どうでしょう。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。

行政財産使用料に関する条例というのが町のほうにありますので、それと突合しまして財政のほうと協議してみたいと思います。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） ほかにございませんか。

吉村委員。

○委員（吉村美津子君） 先ほどの現金及び預金のところで10億ということで、定期預金が3億円ということで、この定期預金は何年間の期限の定期預金なのかお尋ねいたします。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。

半年で年2回になります。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） ほかにございませんか。

吉村委員。

○委員（吉村美津子君） 町長にお伺いしたいのですけれども、実際には27年3月31日より、先ほど課長が述べていただいたように料金改正があって、住民負担増5,800万円になりました。実際にはこれの金額になっていますので、本来ならば、これだけの預金があるわけですから、値上げをすべきではないと思えますけれども、今、これだけの預金がありますので、引き下げのことも今後検討していくべきだと思いますが、その辺についてお伺いいたします。

○委員長（秋坂 豊君） 町長。

○町長（林 伊佐雄君） 水道料金の値上げに関しましては、昨年度、水道審議会の答申を受けて値上げをさせていただきました。住民の皆さんの負担というのはご理解はしております。また、水道会計も赤字ですし、また水道事業を行っていく上である程度留保金も必要であるということで、現金預金が1億程度あるということでご理解をいただきたいと思います。

今後どうするかということに関しましては、また水道審議会等広くご意見を聞いていきたいと思っています。

○委員長（秋坂 豊君） 以上で平成27年度予算実施計画から予算キャッシュフロー計算書まで、8件についての質疑を終了いたします。

続いて、23ページ、収益的収入に関する質疑を行います。

質疑をお受けします。ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（秋坂 豊君） 以上で収益的収入に関する質疑を終了いたします。

続いて、24ページから29ページ、収益的支出に関する質疑を行います。

質疑をお受けします。

吉村委員。

○委員（吉村美津子君） 吉村です。

26ページで石綿セメント管処分業務委託32万4,000円ということで、この問題では、私は全部三芳町では撤去されているかというふうに思っていたのですけれども、これで最終なのか、それともまだあるのか、その辺についてお尋ねいたします。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課副課長。

○上下水道課副課長（池上武夫君） お答えいたします。

まだ細切れで残っている部分が多少残っていますので、その部分の他業者からの受け取りです。東京電力だとかガス屋さんとか、そういう企業者が掘っているところで水道管が出てきたというところの石綿の費用を、この予算で負担する予定にしております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 吉村委員。

○委員（吉村美津子君） 吉村です。

そうすると、他業者のほうで掘ってみたときにわかるのであって、実際には、今はそういったことは、町のほうとしては、どこにどうなっているかという管理はできていないということよろしいのでしょうか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課副課長。

○上下水道課副課長（池上武夫君） はい、そのとおりでございます。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 吉村委員。

○委員（吉村美津子君） 一日も早く、そういったことが全面撤去されていかなければならないというふうに思っているものですから、わかりました。

あと、27ページの中で手数料の中に口座振替手数料88万7,000円、コンビニ収納手数料90万1,000円ということで、この口座振替手数料は説明によりますと銀行とか郵便局ということで、単価が10円になっております。それから、コンビニのほうは基本料が入ってきます。それから、基本料プラス手数料50円ということで、この違いはなぜこのように違うのでしょうか、単価が。

○委員長（秋坂 豊君） 水道業務担当主幹。

○上下水道課水道業務担当主幹（中島喜久男君） 水道業務の中島です。委員さんの質問にお答えしたいと思います。

コンビニの納付のメリットは、土曜、日曜、時間を問わず受け付けていただけます。それが最大のメリットです。ただ、今、委員さんのおっしゃったように、それなりの手数料は当然かかってきています。コスト面でも、これは妥当な金額かと担当のほうでは考えています。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 吉村委員。

○委員（吉村美津子君） 住民のメリットがあるということはわかりましたけれども、実際にそんなに手続をするのは、郵便局でもコンビニにしても、郵便局の社員の方もコンビニの働いている人にとっても、そんなにまで違わないと思うのです、手数ということは。その辺は、なぜその40円の差が出るのでしょうか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

郵便局と銀行に関しては、口座振替等の手数料になります。コンビニにつきましては、納付書払いでの手数料になります。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 山口委員。

○委員（山口正史君） 山口です。

ちょっとページが見つからないのですが、先ほど26年度決算で全て外注して委託して、もう一度見直すというお話だったのですが、金額、ちなみにページ数もわかれば教えていただけますか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

28ページに、決算書作成支援業務委託ということで103万7,000円計上させていただいております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 山口委員。

○委員（山口正史君） 山口です。

この103万の中でどの程度の検証というか、見直し範囲が含まれているのか。これから交渉なのかなという気もするのですが、もしその辺のアイデアもあれば、教えていただきたいのですが。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） 前嶋です。お答えします。

この中には、予算の作成業務委託のときにも資産の部の洗い出し等もやってもらいましたが、それら等も含めてもう一度やっていただきたいと思っています。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 山口委員。

○委員（山口正史君） 山口です。

もう一つ、今までのお話の中で、システムと連動していない部分が多々見られたのですが、その辺についての会計システムの業者との交渉というのは、これから考えていかれるのでしょうか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。前嶋です。

委員さんのおっしゃるとおり、今委託しています業者と、決算作成業務委託の入力に関しても入っていますので、その辺も含めて検討していきたいと考えております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 山口委員。

○委員（山口正史君） ぜひその辺、単に今までの洗い出しということではなくて、今後のこともありますので、システムといかに連動させて、ダブルチェックなり何なりかかるようなシステム構築しませんと、ちょっとこれ解決しないと思いますので、ぜひその辺よろしくをお願いします。

○委員長（秋坂 豊君） 吉村委員。

○委員（吉村美津子君） 吉村です。

先ほどの97ページの手数料ですけれども、実際に郵便局と銀行などでは6,910件の方が利用しているのです。6,910件の方が利用して、支払う金額は88万7,000円。それから、コンビニのほうは1,190件なのです。それで、大体6倍にもかかわらず、口座振替手数料のほうが安い。もちろん単価が10円ですから、安いわけです。こちらは1,190件で、両方ですと90万1,000円ということですから、それは住民が便利なことは悪いことではありませんけれども、私はこのように税金が支払っていく金額が違うわけですから、やっぱりその辺も町民の方にも、こういった差があるということで、できれば郵便局とか銀行等利用してもらえば、また役場にしてもらえば、それだけのここの手数料は減るわけですので、そういった……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○委員（吉村美津子君） いや、不便ではないです。だから、選択制は住民の自由ですから、ただ金額が、支払う税金がそこまでかかっていくということ、やっぱり住民に知ってもらえたらいいのではないかと思います。住民にそのことを知ってもらっても、私はいいのかなというふうに思うのです。その辺はいかがでしょうか。

○委員長（秋坂 豊君） 上下水道課長。

○上下水道課長（前嶋 功君） お答えします。

口座振替が確かにうちのほうとしても安くていいのですが、どうしても銀行が嫌で、手数料を納めてでもコンビニ等とか、あとは水道課の事務所に来て納付をするという方もいますので、全員が全員銀行振り込みを望んでいるのではないかと考えております。

以上です。

○委員長（秋坂 豊君） 同じ質問だったら、その辺にとどめておいてください。違うのだったら……。払っている方が承知して払っているのですから、それは。

ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（秋坂 豊君） 以上で収益的支出に関する質疑を終了いたします。

続きまして、30ページ、資本的収入に関する質疑を行います。

質疑をお受けします。ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（秋坂 豊君） 以上で資本的収入の質疑を終了いたします。

続いて、31ページ、資本的支出に関する質疑を行います。

質疑をお受けします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（秋坂 豊君） 以上で、議案第30号 平成27年度三芳町水道事業会計予算に関する質疑を終了い

たします。

予算議案6件の質疑が全て終了いたしました。

町長を初めとする説明員の皆様には、お忙しい中ご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

暫時休憩します。

(午後 3時01分)

---

○委員長(秋坂 豊君) 再開します。

(午後 3時02分)

---

○委員長(秋坂 豊君) 昨日、議案第25号から議案第29号に関する自由討議は終了していますので、これより議案第30号に関する議員間の自由討議を行います。

討議は挙手の上、委員長の許可を得て発言してください。

それでは、発言をお受けします。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(秋坂 豊君) 以上で予算議案6件に関する委員間の自由討議を全て終了します。

次に、議案ごとに討論、採決を行います。

初めに、議案第25号 平成27年度三芳町一般会計予算について討論を行います。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(秋坂 豊君) 討論を終了いたします。

採決を行います。

議案第25号について可決すべきものとするに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手多数〕

○委員長(秋坂 豊君) 挙手多数であります。

よって、議案第25号は可決すべきものとするに決定しました。

続いて、議案第26号 平成27年度三芳町国民健康保険特別会計予算について討論を行います。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(秋坂 豊君) 討論を終了いたします。

採決を行います。

議案第26号について可決すべきものとするに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手総員〕

○委員長(秋坂 豊君) 挙手総員であります。

よって、議案第26号は可決すべきものとするに決定しました。

続いて、議案第27号 平成27年度三芳町介護保険特別会計予算について討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（秋坂 豊君） 討論を終了いたします。

採決を行います。

議案第27号について可決すべきものとするに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手多数〕

○委員長（秋坂 豊君） 挙手多数であります。

よって、議案第27号は可決すべきものとするに決定しました。

続いて、議案第28号 平成27年度三芳町後期高齢者医療特別会計予算について討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（秋坂 豊君） 討論を終了いたします。

採決を行います。

議案第28号について可決すべきものとするに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手多数〕

○委員長（秋坂 豊君） 挙手多数であります。

よって、議案第28号は可決すべきものとするに決定しました。

続いて、議案第29号 平成27年度三芳町下水道事業特別会計予算について討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（秋坂 豊君） 討論を終了いたします。

採決を行います。

議案第29号について可決すべきものとするに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手総員〕

○委員長（秋坂 豊君） 挙手総員であります。

よって、議案第29号は可決すべきものとするに決定しました。

続いて、議案第30号 平成27年度三芳町水道事業会計予算について討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（秋坂 豊君） 討論を終了いたします。

採決を行います。

議案第30号について可決すべきものとするに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手総員〕

○委員長（秋坂 豊君） 挙手総員であります。

よって、議案第30号は可決すべきものとするに決定しました。

お諮りいたします。ただいま審査いただきました予算議案6件に関する委員長報告につきましては、正副委員長に一任させていただきたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（秋坂 豊君） 異議なしと認めます。

よって、委員長報告は正副委員長に一任とさせていただきます。

---

◎閉会の宣告

○委員長（秋坂 豊君） 以上で本委員会に付託されました案件は全て終了いたしました。

これをもって予算特別委員会の審査を終了し、閉会いたします。

○事務局長（池上義典君） それでは、大変6日間お疲れさまでした。

最後に、久保副委員長よりご挨拶をお願いします。

○副委員長（久保健二君） 皆さん、きょうは休憩を挟みながらですけれども、早朝よりお疲れさまでした。

また、12日の午後から始まりました予算特別委員会でしたけれども、今回の特別委員会では予備日までを使つての特別委員会でしたが、チェックをする機能としましては、今回機能できたのかなというふうに思いますことと、また今回、今議員の構成の中では最後の特別委員会でしたけれども、次回の議員構成どうなるかわかりませんが、そちらのほうに、課題は残りましたけれども、26年度の決算で見直してもらえるところまで話が進んだことは、よかったのかなというふうに思います。

まだ、23日の日に、この審議も含めまして残っていますので、それまでに課題等もありますが、会派に持ち帰っていただき、きちんと精査した上で審議していただけたらというふうに思います。

本日はお疲れさまでした。ありがとうございました。

(午後 3時08分)